



标准商务日语系列丛书

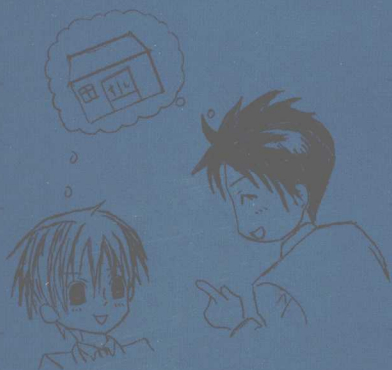
标准商务

標準ビジネス日本語会話

日语会话

第一册

主编：(日)高见泽 孟 陈 岩



含MP3光盘一张

外语教学与研究出版社



标准商务日语系列丛书

标准商务

標準ビジネス日本語会話

日语会话

第一册

主编：(日)高见泽 孟 陈 岩



13:30



外语教学与研究出版社
北京

图书在版编目(CIP)数据

标准商务日语会话. 第1册/(日)高见泽孟, 陈岩主编. —北京: 外语教学与研究出版社, 2009.9

(标准商务日语系列丛书)

ISBN 978-7-5600-9010-8

I. 标… II. ①高… ②陈… III. 商务—日语—口语—教材 IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 170035 号

universal tool · unique value · useful source · unanimous choice



悠游外语网
www.2u4u.com.cn

外研社全新推出读者增值服务网站, 独家打造双语互动资源

欢迎你:

- 随时检测个人的外语水平和专项能力
- 在线阅读外语读物、学习外语网络课程
- 在线观看双语视频、名家课堂、外语系列讲座
- 下载外语经典图书、有声读物、学习软件、翻译软件
- 参与社区互动小组, 参加线上各种比赛和联谊活动
- 咨询在线专家, 解决外语学习中的疑难问题

此外, 你还可以通过积累购书积分, 兑换图书、电子书、培训课程和其他增值服务……

你有你“优”, 你的优势就是你的拥有。即刻登录, 抢先体验!

出版人: 于春迟

责任编辑: 杜红坡

封面设计: 蔡曼

版式设计: 赵欣

出版发行: 外语教学与研究出版社

社址: 北京市西三环北路19号(100089)

网址: <http://www.fltrp.com>

印刷: 北京市鑫霸印务有限公司

开本: 787×1092 1/16

印张: 22

版次: 2009年9月第1版 2009年9月第1次印刷

书号: ISBN 978-7-5600-9010-8

定价: 45.90元(含MP3光盘一张)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 190100001

《标准商务日语会话》第一册

主 编：（日）高见泽 孟 陈 岩

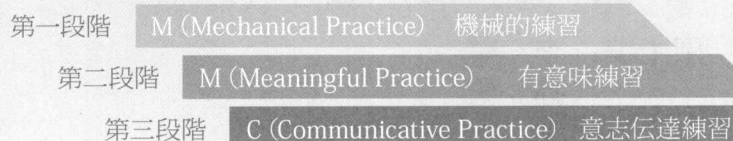
副主编：李 莹
 孙 雪
 郝 岩



本書の特徴

本書の基本学習理論は、従来から行われてきた反復練習やテキスト文の暗記による「習慣形成理論」(注1)を採らず、次のような新しい学習理論に基づいた「効果的な学習」を実現するよう構成されています。

- 1 言語の習得は、機械的な反復練習の積み重ねによって行われるのではなく、学習者が既習知識によって保持している「仮説」(注2)に基づいて「文」を創り出し、その試行錯誤を通して言語を習得していくと考える。
- 2 本書による学習は、以下の段階を経て行われ、合理的、かつ効果的に学習項目が習得される。



第一段階では、テキスト文の反復練習や文型練習など機械的な言語の操作を練習するが、これによって言語が習得されるとは考えず、発音の矯正訓練や文型の確認が主たる目的であり、第三段階での自律的な「試行錯誤」を試みる基礎的な知識や能力を育成する段階である。

第二段階では、相手の発話の意味を考えて、適切な応答をする練習を行うが、この段階では、相手の発話の趣旨を理解して、適切な応答文を創り出す訓練であり、より実践的な言語使用の段階になる。

第三段階では、既習のあらゆる知識を総動員して、状況にふさわしい文を創り出す練習を行う。練習方法としては、①質問に対して、「事実を述べる」訓練や②与えられた「状況にふさわしい慣用表現や敬意表現を述べる」訓練、③与えられた「前文にふさわしい後続文」を考えて、文を完成させる訓練などが代表的な方法であるが、この段階での練習では、「内容」も「使用文型」も「使用語彙」「丁寧さのレベル」など、すべて学習者が自主的に決定することになっている。つまり、実際のコミュニケーションの場合と同じように、応答のあらゆる要素を学習者自身が選択し、意思疎通を図る訓練になっている。

- 3 この学習方法は、学習者が基礎的な言語項目を学習した上で、それを自力で駆使できるようにするため「状況」だけを示し、自主的にコミュニケーションを行えるよう構成されている。

- 4 テキストの内容は、海外の日系企業従業員が必要とされる表現や語彙を中心に学習し、さらに課末にはその課の内容と関連のある日本の企業文化の解説が掲載され、言語と情報の両面からビジネス日本語の学習が行えるように企画されています。
- 5 一般的な日本語のテキストと異なって、本書では初級段階から専門用語やビジネス慣用表現が導入されていますが、これらは実際の企業内コミュニケーションでよく使われる表現なので、各課の状況に合わせて紹介してあります。

以上が本書の特徴ですが、キーワードは、

- ①「効果的な学習方法」
- ②「実用的な教育内容」であるといえます。

注1 習慣形成理論 (Habit-forming Theory)

言語は一種の「社会的な習慣」であり、言語を身につけるということは、新しい習慣を獲得することなので、そのために必要なのは、同じ行為を繰り返し行うことである。言語の習得も、その言語を繰り返し練習することによって達成されるとする理論。オーディオリンガル・アプローチ (Audio-lingual Approach) などがその理論を採用していたが、チョムスキー (Noam Chomsky 1928-) らの理論によって否定され、「仮説検証理論」 (Hypothesis Testing Theory) などに代わられている。

注2 仮説 (Hypothesis)

学習者は、ある言語に接触し、その言語でのインプットを受けると、その言語に関する独自の「仮説」を作り、それに基づいてその言語を使用し、成功すれば、その「仮説」を使い続け、うまくいかない場合には、その「仮説」を訂正して、「新仮説」を作り、それに基づいて言語を使用する。言語の習得は、機械的な反復練習によって達成されるのではなく、学習者の積極的な「仮説の構築」と「仮説の検証」の過程を経て行われる。

現在の教授法には、この理論に基づいた言語教育を行っているので、学習活動でも学習者が積極的な「試行錯誤」、つまり、学習者自身の「仮説」によって文を創造し、それが誤っていれば、さらに「新仮説」を形成して、発話を再発信する過程を重視している。



本书的特点

本书并未采用长久以来以反复练习和背诵课文为手段的“习惯形成理论”（注1），而是为了实现“有效的学习”，采用了如下新的学习理论。

- 1 语言的习得并不是通过机械性的反复练习进行的，而是学习者通过已知的知识，根据现有的“假设”（注2）造出“句子”，然后在不断的“错误尝试”中学习语言。
- 2 通过本书的学习，经过以下的阶段，就能够合理、有效地习得学习项目。

第一阶段 M (Mechanical Practice) 机械性练习

第二阶段 M (Meaningful Practice) 意图性练习

第三阶段 C (Communicative Practice) 交流性练习

在第一阶段，要进行反复诵读课文、练习句型等机械性的练习，这并不是使学习者习得语言，其主要目的是矫正发音和确认句型，同时也是为了积累知识和能力，以便在第三阶段能够自发地进行“错误尝试”。

在第二阶段，学习者思考会话的含义，进行适当的问答练习。本阶段既是训练学习者理解对方话语的含义，并给出适当回答的练习，也是更加实战性的语言使用的阶段。

在第三阶段，运用所有学过的知识，根据情况练习造出适当的句子。代表性的练习方法有：①对于提问进行“阐述事实”练习，②练习使用“与情况相符的惯用表达或敬意表达”，③根据前句意思，把句子补充完整的练习。此阶段的练习中，“内容”、“使用的句型”、“使用的词汇”、“敬意的程度”等都是由学习者自主决定的。即与实际的交流场景相同，回答时所有的要素都由学习者自己选择，以达到锻炼沟通想法的目的。

- 3 该学习方法是建立在学习者学习过基础语言项目的基础之上的。为了使其能够依靠自己的能力进行练习，此处只向学习者提供“场景”信息，使其能够自主地进行交流。

- 4 教材的内容主要是以海外日系企业的员工所必需的表达和词汇为中心。另外，为了使学习者能够从语言和文化两方面学习商务日语，在每课课后都加入了与该课内容有关的日本企业文化的解说。
- 5 与一般的教材不同，本书从初级阶段开始就引入了专业词汇和商务惯用表达，这些都是在实际的企业内部交流时经常使用的表达，配合每课的情况加以介绍。

以上是本书的特点，总结起来有两点：

- ① “有效果的学习方法”
- ② “实用性的教学内容”

注1 习惯形成理论 (Habit-forming Theory)

语言是一种“社会性的习惯”，掌握一种语言就是获得一种新的习惯。所以必须不断重复相同的行为。语言的习得也是通过反复练习而完成的。听说法 (Audio-lingual Approach) 等方法就是采用这一理论，但被乔姆斯基 (Noam Chomsky 1928~) 的理论所否定，取而代之的是“假说验证理论” (Hypothesis Testing Theory)。

注2 假设 (Hypothesis)

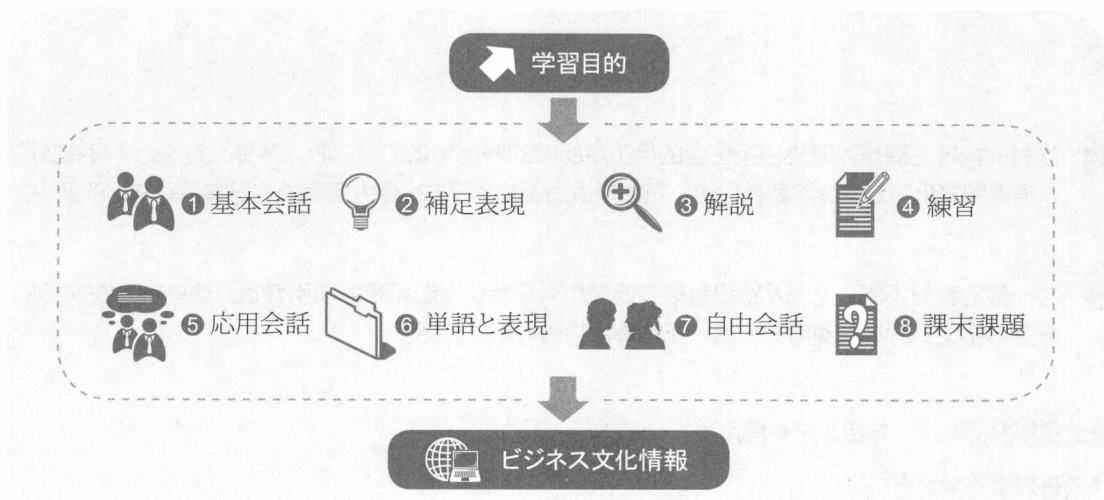
学习者接触某种语言，接受该语言的输入时，就会各自构筑该语言相关的“假设”，基于此种假设来使用语言。成功的话，就继续使用该“假设”，失败的话，则进行修改，再作出“新假设”，然后再进行使用。语言的习得，不是通过机械性的反复的练习而进行的，而是通过学习者积极地“构筑假设”和“验证假设”而进行的。

现在的教授法都是基于此理论的。所以，即使在学习活动中，也很重视学习者自身积极的“错误尝试”，即学习者根据自身的“假设”造句，如果是错的，再构筑“新假设”，然后再重新造句的过程。



本書の教え方

本書の各課は、標準的には次のような構成になっています。



それぞれの教え方は、以下のようです。

0 学習目的

「学習目的」には、この課で学ぶべき文法事項や言語機能の説明が記載されています。課の学習を始める前に必ず学習者に読むように指導してください。教師はこの「学習目的」を読み上げたり、解説したりする必要はありません。

1 基本会話

「基本会話」は、文型や語彙、さらにその課の状況にふさわしい「慣用表現」などを導入するための役割を負っています。この「基本会話」は次のように指導します。

- 1 まず、学習者(たち)に付属のMP3を使って「基本会話」を2度聞かせてください。学習者(たち)はテキストの当該ページを読みながら、その「会話」内容を聴き、「会話」の音声と意味を結びつけて理解するようにします。
「会話」が複数ある場合には、個別にこの方法で学習します。
- 2 「基本会話」を教師が語り口調で読み上げ、学習者にそれを真似て発音させます。その際、音声の間違えやアクセントの間違えは、訂正して発音をやり直させますが、初級の段階では、母語話者並みの正確さを要求せずに、まずは母語話者が聞いて意味がわかる程度の正確さを到達目標とします。

学習者が複数の場合には、各発話ごとに次の手順で練習を行います。

- 1) 合唱練習 教師がモデル発音を示し、学習者たちにいっせいに復唱させます。各発話ごとに3回程度練習します。
- 2) 個別練習 教師がモデル発音を示してから、学習者の一人を手で指定し、復唱させます。その際に名前を呼んで指名するのは、モデル発音の効果がそがれるので、望ましくありません。また、人差し指で指差すのも、学習者の文化によっては

不快感を与えるので、避けるべきです。望ましいのは、手の平を上にして、いずれかの学習者に向けて発話者を指名する方法です。

発音の訂正は、この個人指導の際に行うが、問題のある語だけの練習をせずに、文として発音させて、練習させましょう。発音に問題があれば、訂正し、モデル発音を示して、言い直させますが、問題がない場合には、次の学習者に移って練習しますが、いずれの場合にも、教師がモデル発音を示してから学習者に模倣発音をさせます。

- 3 「個別練習」に続いて、「役割別練習」を行います。この練習は、「会話」の話者を学習者に割り振って「基本会話」通りの擬似コミュニケーションを行います。本書の「基本会話」では、必ず一方の話し手が中国人になっていて、その部分の発話がより重要な学習事項ですが、この練習では、他の役割の部分も担当します。

最初に「役割別練習」を行う場合には、教師も参加することが勧められますが、その際には教師は第一話者（＝「基本会話」で最初に話す役割）を担当するようにしてください。教師から発話が始まると、「会話」全体の話の速度や声の大きさが教師のペースで決まるからです。

この「役割別練習」では、テキストを読むのではなく、それまでの練習を通して身についた新しい話し方を十分に発揮して「話し口調」で話すよう指導してください。

2 補足表現

「補足語彙」では、「基本会話」の内容に関連した語彙や表現を補充します。ここで導入される語彙・表現は、「練習」や「応用会話」、「課末課題」で使われますから、よく学習させて、使用できるように訓練してください。

「補足語彙」の指導は、語彙や表現を教師がモデル発音を示し、それらを反復練習する方式で行います。重要語句については、「4 練習」の最後に紹介する「自由応答練習」の方法を採用して学習者に使用の体験をさせることも勧められます。

3 解説

「解説」では、この課で導入される文法や用法、さらに日本のビジネス文化にかかわる表現などを解説してあります。基本的には、学習者が自習して、解説内容を理解すればいいので、教師が積極的に説明をする必要はありませんが、学習者から質問があった場合には、本書の解説と同じ立場で説明してください。まったく異なる解釈で説明すると、学習者を混乱させて、学習効果を低下させてしまいます。

4 練習

本書では、前述した「機械的練習」は「基本会話」や「補足語彙」で行い、この「練習」の部分では、「有意味練習」や「意思伝達練習」が中心になります。「練習」も一種の問題解決のための課題であると考え、多くの場合、学習者自身の「仮説」に基づく「自由な応答」によって言語使用の「試行錯誤」を実施させるよう構成されています。

「練習」において教師は原則として、問題文を読んだり、応答の仕方を説明したりせずに、ただある練習問題のある部分を担当する学習者を指名するだけで、その応答が満足できるものであれば、次の応答者を指名し、次々に応答させます。

応答内容が不適切な場合には、当然もう一度答えさせます（「新仮説」による応答）が、それでも、改善されない場合は、他の学習者に応答させます。不適切な応答の原因が文法や用法の規則の誤解に基づいている場合には、その「練習」の修了後、関連した規則の解説を行います、その場合も、混乱を避けるためにテキストの「解説」と矛盾しない説明をしてください。

自由応答練習

本書に記載されている「練習」以外に、学習者の習得状況によって行う「自由応答練習」があります。これは実践的なコミュニケーション能力を育成するのに効果的な練習方法である。

「自由応答練習」は、次の方法で行います。

この練習は、基本的には教師が質問し、学習者が答える形式で行われます。この質疑応答は、単なる「会話」ではなく、教師は特定の目的を持って質問し、学習者の答えを引き出し、その「やり取り」の過程が言語使用の体験になり、その体験がコミュニケーション能力の向上に役立つと考えています。

1 教師が特定の意図を持って学習者に質問します。

この場合、考慮すべきなのは、応答の内容は学習者が知っていて、教師は知らない「情報」でなければならないということで、このような情報の差を「インフォメーション・ギャップ (information gap)」といいます。

この質問の意図は、「練習の目的となっている表現」、つまり、学習者に「習得させたい表現」を学習者に応答の中で使わせて、その「使用体験」を通して習得させることにあります。

2 教師の質問は、段階を経て用意に答えられるよう工夫してあります。

この「自由応答練習」の質問には、次の3種類があります。

1) 「はい—いいえ」質問

「はい」あるいは「いいえ」で答えられる質問

2) 「事実関係」質問

学習者だけが知っている「事実」についての質問

3) 「理由確認」質問

理由を尋ねる質問

1) 「はい—いいえ」質問は、質問内容が理解できれば、応答は簡単になりますが、質問文に「目標表現」の使用例を示す役割も果たしているので、次の質問に答える際の表現使用のヒントになる面もあります。

2) 「事実関係」質問は、事実について学習者が自由に応答するのですが、その応答文の中で「目標表現」を使わせるのが目的になっているので、質問に工夫が必要です。

3) 「理由確認」質問は、「事実」に対する応答内容についてその理由を尋ねるのですが、その理由の説明の中で「目標表現」を使わせるのが目的となっています。「理由」の説明は、言語使用の中でもっとも複雑な過程を経て行われるので、「自らの発想を目標言語で表現する訓練」のにも役立つ訓練になります。

自由応答練習の実例

「自由応答練習」は、初級レベルから可能な練習方法ですが、ここでは「～すれば、～するほど」を「目標表現」とします。

①

「はいーいえ」質問

Q: 日本語は、勉強すればするほど、易くなるでしょう。

A: いいえ、く勉強すればするほど難しくなります。

②

「事実関係」質問

Q: 勉強すればするほど、日本語の何が難しくなりますか。

A: 敬語は、勉強すればするほど、難しくなりますよ。

③

「理由確認」質問

Q: なぜ、敬語が難しくなりますか。

A: 勉強すればするほど、新しい敬語が出てきますから、難しくなりますよ。

5 応用会話



「応用会話」は、「基本会話」の応用として類似した状況での会話を提示して、その使用域の拡大を理解させます。この「応用会話」は、①聴解用教材であり、②発話練習用補助教材でもあります。①「聴解用」としては、「応用会話」を録音したMP3を聞かせ、その内容を質問したり、要約させたりする方法で、学習者の聴解訓練を行います。この「応用会話」には、「基本会話」や「補足表現」で導入されていない語彙や表現が含まれています。「聴解練習」の場合は、それらの新語彙などを詳しく学習させずに、録音を聞かせると学習者の「類推能力」の育成にも役立ちます。(外国語でのコミュニケーションでは、往々にして未知の語彙や表現に出会い、その部分を類推によって補わなければならないので、この類推力の強化は必要な訓練になります。)

②の「発話用」での指導法は、「基本会話」練習と同様の過程で行われますので、その説明は省略します。

6 単語と表現



ここではこの課で導入された「単語」と「表現」をすべて記載して、学習者の学習の便宜を図っています。

7 自由会話



「自由会話」では、この課で導入された語彙や表現を中心により自然な会話では、どのように使われるかを示しています。従って、新しく導入された語彙や表現が含まれている場合もあります。「自由会話」は、①MP3の会話を聞かせてその内容を要約させたり、②会話参加者の一方の立場を説明させたり、課題聴解(タスク・リスニング)用教材として使用したりしますが、能力的に余力のある学習者の場合には、発話練習用教材として使うこともできます。

8 課末課題



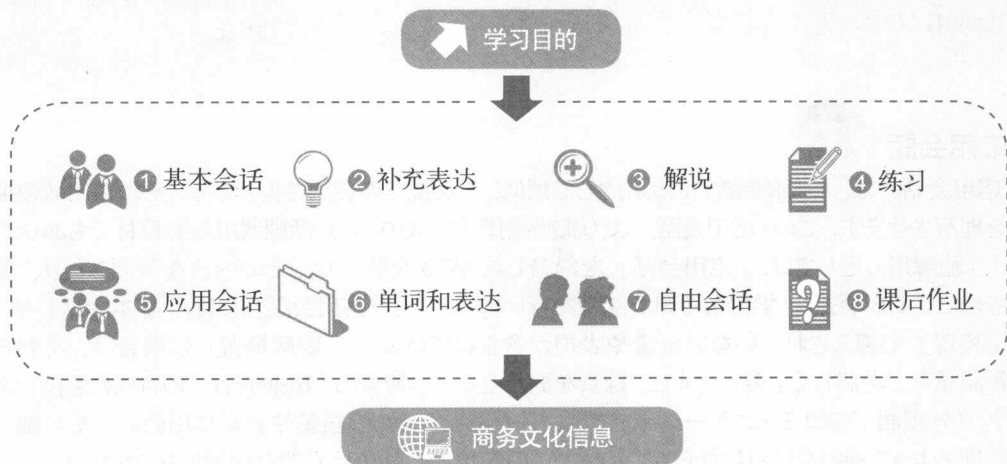
「課末課題」は、その課の学習項目が習得されているかどうかを確認するためのテストです。中国語で与えられている指示に従って学習者が解答する方式ですから、教師は回答者を指名します。正答率が80%以下であった場合には、関連学習事項を復習させた上で、もう一度「課末課題」をやらせてください。

以上が本書の標準的な教え方です。学習者の能力によってこの教え方を調整して指導してください。学習者の習得を促進することが最も大切なことですから、学習者にとって学びやすい指導法を工夫してください。



本书的教授方法

本书各课由以下部分构成。



每部分的教授方法如下。

0 学习目标

在“学习目标”这部分中，主要记述了在该课中应该学习的语法项目和语言功能。在每课开始学习之前请务必指导学习者阅读。教师不需要朗读或讲解“学习目标”这一部分。

1 基本会话

在“基本会话”部分中导入了句型、词汇以及符合该课情景的“惯用表达方式”。此“基本会话”部分可进行如下指导。

1 首先，利用教材附带的 MP3 录音让学习者听两遍“基本会话”。学习者一边读教材中该页的内容，一边听“会话”，争取把“会话”的声音和意思结合在一起并做到理解。有多个“会话”时，分别以此种方法学习。

2 教师以讲述的语气来朗读“基本会话”，让学习者进行模仿。模仿时，对于学习者的发音错误或音调的错误给予纠正，并要求其重新发音。但是，在初级阶段，并不要求学习者达到正宗日语的水平，只要达到日本人能够听懂的程度即可。

有多位学习者的情况下，每组会话按照以下顺序进行练习。

1) 齐读练习 教师示范读音，要求学习者一起复读。每组会话练习三次左右。

2) 个别练习 教师示范读音后，指定一名学习者进行复读。为了不影响示范发音的效果，不建议点名指定学习者复读。另外，因文化的不同，用食指指人也会给学

习者造成不愉快的感觉，应该避免。最好的方法是手心向上指向学习者。在个别指导纠正发音时，不要只让学习者练习有问题的词，而是对整句进行发音练习。教师应该对有问题的发音进行纠正，示范后让学习者改正；在发音没有问题时，教师应继续示范，然后要求下一学习者模仿发音并进行练习。

3 继“个别练习”后，进行“分角色练习”。在此项练习中，要给学习者分派角色，按照“基本会话”进行模拟会话。本书的“基本会话”中，会话双方有一方扮演中国人的角色，这是比较重要的学习部分。在此项练习中，其他角色的部分也要求进行练习。

在最初进行“分角色练习”时，建议教师也加入其中，做练习时请教师担任第一说话者（即“基本会话”中最开始的角色）。教师先发话，并由教师决定整体“会话”的速度和声音的大小。

“分角色练习”并不是读教材，而是通过练习指导学习者以“说话的口气”充分地发挥所掌握的新的说话方式。

2 补充表达

在“补充词汇”中，补充了与“基本会话”内容有关的词汇和表达方式。因为在这里引入的词汇和表达会在“练习”、“应用会话”和“课后作业”中出现，所以要求学习者好好学习，练习到能够使用的程度。

指导“补充词汇”部分时，教师应该示范发音，反复进行练习。重要的语句最好在“4 练习”的“自由问答练习”中让学习者体验实际的应用。

3 解说

“解说”部分，包含了该课中出现的语法、用法以及与日本的商务文化相关的表达。基本上由学习者自学，只要能够理解解说部分的内容即可，不需教师进行说明。不过，学习者有问题时，请教师给予与本书相同的解释。因为如果作出完全不同的解释，会使学习者产生混淆，影响学习效果。

4 练习

本书中的“机械性练习”在“基本会话”和“补充词汇”等处进行，在这部分“练习”中，以“意图性练习”和“交流性练习”为重点。由于“练习”也是一种解决问题的方法，所以多数情况下，基于学习者自身的“假设”进行“自由问答”进而在语言使用中实行“错误尝试”，也是“练习”的一部分。

在“练习”部分中，教师要遵守的原则是，不要读问题，也不要说明问答的方式，只需指定学习者担任某练习问题的某部分，回答满意后即可指定下一学习者继续回答问题。

回答内容不合适的情况下，要求学习者再回答一次（根据“新假说”回答），但是在没有改善的情况下，则请其他学习者来回答。回答不合适的原因是由于误解语法、用法的规则时，在此项“练习”结束后，进行相关规则的解说。为了避免混乱，请教师遵照教材中的“解说”进行说明。

自由问答练习

除了本书所记载的“练习”以外，还有可以根据学习者的学习状况进行的“自由问答练习”。这是一种培养实际交流能力的有效练习方法。

“自由问答练习”按照以下方法进行。

此部分的练习基本上采取教师提问、学习者回答的形式。这种问答的形式，不是单纯的“会话”，而是教师以特定的目的进行提问，引导学习者回答。在这种“交谈”的过程中体验语言的使用，可以起到提高交流能力的作用。

1 教师带有特定意图向学习者提问。

在这一阶段的练习中，需要注意的是，问答的内容是学习者所知道的，而且必须是教师所不知道的，这种信息的差异我们叫做“信息差距 (information gap)”。

此项提问的意图是“达到练习目的的表达”，即在问答练习中，让学习者使用“希望学习者掌握的表达”，通过这种“使用的体验”来达到学习的目的。

2 在不同的阶段，教师要在提问上下功夫，保证学习者能够回答出来。

“自由问答练习”的提问有以下3种。

1) “是与否”的提问

能够用“是”或“不是”来回答的提问

2) “与事实有关”的提问

有关只有学习者知道的“事实”的提问

3) “确认理由”的提问

询问理由的提问

1) “是与否”的提问中，只要能够理解提问内容，就能够简单地回答。但是由于提问句起到了“目标表达”例句的作用，所以在回答接下来的问题时需要给出所使用的表达的提示。

2) “与事实有关”的提问中，学习者根据事实情况自由地回答问题，但是此项练习的目的是让学习者在回答句中使用“目标表达”，所以需要在提问的方式上多下功夫。

3) “确认理由”的提问是针对“事实”的回答内容询问其理由，让学习者在说明理由的同时达到练习使用“目标表达”的目的。说明“理由”是在语言使用中经历的最复杂的过程，所以也能够起到“训练使用语言表达自我思想”的作用。

自由问答练习的实例

“自由问答练习”是在初级阶段就可以使用的练习方法，在这里我们取「～すれば、～するほど」为“目标表达”。

① “是与否”的提问

Q: 日本語は、勉強すればするほど、易くなるでしょう。

A: いいえ、く勉強すればするほど、難しくなります。

② “与事实有关”的提问

Q: 勉強すればするほど、日本語の何が難しくなりますか。

A: 敬語は、勉強すればするほど、難しくなりますよ。

③ “确认理由”的提问

Q: なぜ、敬語が難しくなりますか。

A: 勉強すればするほど、新しい敬語が出てきますから、難しくなりますよ。

5 应用会话



“应用会话”作为“基本会话”的应用，包含了与其相类似的情况，要了解其使用领域的广泛性。本书的“应用会话”既可以是①听力教材，也是②会话练习用的辅助教材。

① 作为“听力教材”，让学习者听“应用会话”配套的 MP3，并就其内容进行提问，要求学习者对内容进行归纳，以此来进行听力训练。此部分中有在“基本会话”、“补充表达”中没有收录的词汇和表达方式。在做听力练习的时候不要将这些新单词教给学习者，听 MP3 可以养成学习者的“类推能力”。（外语的交流往往都是与未知的词汇和表达方式打交道，此部分是强化此种类推能力的必要的训练。）

② 会话练习的指导方法与前面所讲的“基本会话”部分的练习一样，在此省略。

6 单词和表达



此部分收录了该课中出现的所有的“单词”和“表达”，以方便学习者学习。

7 自由会话



“自由会话”中向学习者展示了该课所收录的主要词语、表达应如何在自然的会话中使用。因此，也会包含一些新词汇和表达。学习“自由会话”时，可以要求学习者①听录音归纳内容梗概，②以会话参加者的身份进行说明，作为听力教材使用，对于学有余力的学习者，也可以作为会话练习教材使用。

8 课后作业



“课后作业”是为了检验学习者是否完成了该课的学习项目而设置的。教师指定回答者，学习者可以遵照汉语的提示给出解答。当回答的正确率低于80%时，可以要求学习者复习相关部分，然后再重新做一次“课后作业”。

以上是本书标准的教授方法，请根据学习者的能力进行调整和指导。为了使学习者更有效地学习，需要在指导上多动脑筋，总结出对于学习者来说容易接受的指导方法。

目次

第一課	あいさつ「おはよう」	1
第二課	新入社員「王勇さんです」	11
第三課	質問「あなたは通訳ですか」	21
第四課	疑問文「どなたですか」	31
第五課	形容表現「おもしろい仕事ですね」	43
第六課	動詞の用法「王さん、いますか」	55
第七課	電話番号「電話番号は何番ですか」	69
第八課	電話の会話（1）「総務部です」	79
第九課	電話の会話（2）「外出中です」	93
第十課	会議の予定「会議は2時からです」	107
第十一課	訪問「4時過ぎに伺います」	121